

平成 19 年度

## 病害虫発生予報第 2 号

平成 19 年 5 月 23 日

### 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ <http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

## 目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	7
4. 予察項目の見方	12
5. 今月のトピックス	13
6. 気象のデータ	14
7. おしらせ	16

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 普通作物

イネではいもち病の発生時期はやや遅、発生量はやや少と予想されます。早期発見に努め、予防防除に心がけましょう。イネクロカメムシの発生量はやや多、イネミズゾウムシの発生量はやや少と予想されます。共に常発地では注意が必要です。

### 2) 果樹

カンキツでは、そうか病の発生量は少、黒点病、ミカンハダニの発生量は平年並、かいよう病は温州みかんで少、中晩柑類では平年並、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少と予想されます。

ナシでは、黒星病の発生量はやや少、ハダニ類の発生量は少と予想されます。

ブドウでは、べと病の発生量はやや多と予想されます。今後の降雨に注意して、予防散布を実施してください。

果樹カメムシ類の発生量は、少と予想されます。

### 3) 茶

炭疽病、もち病の発生量はやや少、カンザワハダニ、チャノホソガ、チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は平年並と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病、炭疽病の発生量は平年並と予想されます。炭疽病は、これからの高温多湿の時期を迎えると発生しやすくなるので注意してください。

ネギでは、ネギコガの発生量は少と予想されます。

コナガの発生量は、少と予想されます。

### 5) 花卉


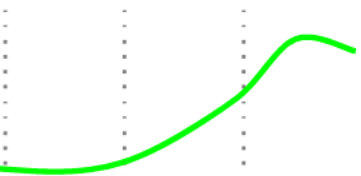
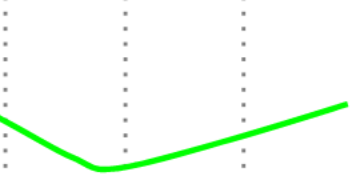
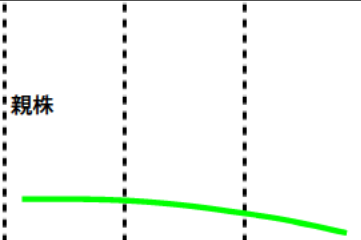
ツツジ類における褐斑病の発生量は平年並、ツツジグンバイの発生量はやや少と予想されます。

## 2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生時期	発生量		5月		6月		
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	葉いもち	やや遅	やや少	小	普通	置苗で発生 ↓		本田で発生 ↓		<ol style="list-style-type: none"> <li>圃場に放置されている置苗は、いもち病の発生源となるので、速やかに除去し枯死させてください。</li> <li>発病が認められた圃場では治療効果の高い薬剤で防除してください。</li> </ol>
	イネクロカメムシ	—	やや多	小	普通		成虫誘殺数 ↓		被害量 ↓	<ol style="list-style-type: none"> <li>近年増加傾向にあり、多発すると株の生育阻害により減収を招きます。</li> <li>発生する圃場は常発化する傾向があるため、前年発生した圃場では特に注意してください。</li> <li>越冬成虫は圃場周囲から侵入するので畦に近い株から被害がみられるようになります。</li> <li>向こう1か月間は、葉先が白く縮れる症状が発生します。</li> </ol>
	イネミズゾウムシ	—	やや少	小	低		成虫誘殺数 ↓			<ol style="list-style-type: none"> <li>箱施用を行っていない圃場で成虫の発生が平均で株当たり0.5頭以上になったら、被害の出るおそれがあるので早目に水面施用剤を散布してください。</li> </ol>
カンキツ	そうか病	—	少	小	低	葉・枝 ↓		果実 ↓		<ol style="list-style-type: none"> <li>落弁期から梅雨末期にかけて、果実へ感染します。</li> <li>6月以降は新芽や幼果の病斑から2次感染をしますので、早期の予防散布が重要です。</li> </ol>
	黒点病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>生理落果盛期～後期に予防防除を実施してください。</li> <li>薬剤散布後、積算で200mm以上の降雨があったら、次の防除を実施してください。</li> <li>枯枝が伝染源ですので、樹冠内や園内の枯枝除去を行い、病原菌密度を下げるようにしてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		5月	6月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州少 中晩柑 平年並	小  小	低  普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>例年発生する圃場では、幼果への感染防止対策として、予防散布を実施してください。</li> <li>温州みかんでは6月から8月下旬まで、ネーブル等の中晩柑類では6月から10月中下旬まで、果実への感染が起きます。</li> </ol>
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>本年は一部で多発している圃場があります。発生に注意して、薬剤散布を計画してください。</li> <li>マシン油乳剤等を有効に利用して、同一系統薬剤使用はなるべく年1回としてください。</li> <li>ミカンハダニが増加する前に、散布ムラのないように十分に薬剤散布してください。</li> </ol>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>例年被害の多い園では、6月上旬～中旬に防除し、その後は果実被害率10%あるいは30日間隔を目安に次の防除を行ってください。</li> <li>梅雨明け後に発生が多くなる場合がありますので注意してください。</li> </ol>
ナシ	黒星病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>発病果及び発病葉は発見次第摘除し、園外へ持ち出して処分してください。</li> <li>薬剤散布にあたっては、同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>
	ハダニ類	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>防除の目安は成虫の1葉当たり寄生虫数が1～2頭の時です。</li> <li>殺ダニ剤は抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の使用は年1回としてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			平年比	平年比		程度	平年比	5月	6月		
								下旬	上旬		中旬
ブドウ	べと病	—	やや多	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 雨が続くと急激に発生が多くなるので、降雨が予想される時は、早めに予防散布を行ってください。</li> <li>2) 葉裏に病斑を認めた時は直ちに防除を実施してください。</li> <li>3) 被害葉及び被害落葉は、発見次第圃外に持ち出し処分してください。</li> <li>4) 薬剤散布にあたっては同一作用性を示す薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>	
果樹共通	カメムシ類	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 飛来が確認されない圃場では、防除の必要はありません。</li> <li>2) 夜温が極端に高くなる日などには活発に飛翔します。街灯などで飛来の兆候を観察してください。</li> </ol>	
チャ	炭疽病	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病原菌は開葉して間もない軟らかい新葉にだけしか侵入できないので、新芽の生育期が薬剤散布の適期です。</li> <li>2) 二番茶 1 葉期～2 葉期に雨が続いた場合は、予防的に防除します。昨年多発した園では注意が必要です。</li> <li>3) かぶせ茶では発病する危険が高まります。</li> </ol>	
	もち病	—	やや少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 雨が続く場合は、一番茶芽で発生の多かった圃場や山間部では発生が多くなります。</li> <li>2) 二番茶芽の萌芽期から 1 葉開葉期の薬剤散布が効果的です。</li> </ol>	
	カンザワハダニ	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本年は、地域や茶園によって発生の差が大きく異なります。</li> <li>2) 多発すると防除が困難なので、発生初期の防除が重要です。</li> <li>3) 葉裏で繁殖します。ていねいに散布してください。</li> <li>4) 薬剤抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年並		程度	平年比	5月	6月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
チャ	チャノホソガ	—	平年並	中	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 二番茶では成虫発生ピークと2葉期が合致する場合がありますので、三角巻葉が発生する可能性が高くなります。</li> <li>2) 防除適期は、脱皮阻害剤では卵期、その他の剤では幼虫孵化直後の葉裏潜伏期です。</li> </ul>	
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。</li> <li>2) 成虫よりも幼虫による加害の方が大きな被害になります。</li> </ul>	
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	小	低	成虫密度					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 二番茶芽の2葉期までに防除が必要です。</li> <li>2) 葉裏に生息しているため、ていねいに散布してください。</li> </ul>	
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	中	普通	親株					<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 胞子の発芽適温は20℃前後で、今後1か月は発生しやすい状況です。</li> <li>2) 薬剤散布は、予防に重点をおき、発病を認めたときは、集中的に散布して十分に防除してください。</li> <li>3) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏までかかるよう丁寧に散布します。</li> <li>4) 本病は乾燥状態でも発生するので、雨が少なく乾燥する場合にも注意が必要です。</li> </ul>	

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	5月			6月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					1) 親株床、育苗床は降雨等で冠水しないよう排水対策を行います。 2) 灌水は、水滴が極力茎葉に当たらないように行います（やさしく手灌水、チューブ灌水）。 3) これから梅雨、高温期にかけて定期的な防除と降雨前、葉かき後の防除を徹底して行います。 4) 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布します。		
						成虫密度	—	少	小		低	
野菜共通	コナガ	—	少	小	低					1) 近年、大きな被害は見られませんが、年間 10～12 世代も発生し、繁殖力が旺盛でアブラナ科野菜の重要害虫です。 2) 薬剤抵抗性の発達がはやい虫なので、同一系統及び同一薬剤の連用をさげ、系統を替えてローテーション散布を行います。		
						発病密度	—	平年並	小		普通	
ツツジ類	褐斑病	—	平年並	小	普通					1) 風通しが悪く高温乾燥条件が続けば盛んに繁殖するので注意してください。 2) 成虫・幼虫も葉の裏面に生息しているので、葉の裏面に薬剤がかかるよう丁寧に散布してください。		
						成虫密度	—	やや少	小		普通	

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	やや遅	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月18日発表）によると、気温は高くなく(-)、平年と比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) BLASTAM（5月17日現在）による感染好適日は未出現（±） 3) 巡回調査圃場（5月第2週）では、置き苗のいもち発病生率0%（平年0.3%）と少（-） 4) 一般圃場では、発生は未確認（-）</p> <p>考察： 気温がいもち病菌の適温より低く推移し、今後も高くなるとされていることを重視して、発生時期はやや遅く、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	イネクロカメムシ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 前年の発生量は多いため成虫越冬量は多と推測（+） 2) 予察灯（松阪市・5月17日現在）では、未飛来（±）</p> <p>考察： 成虫越冬量の予想を勘案し、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	イネミズゾウムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯（水田・松阪市・5月第2半旬まで）では、誘殺数は34頭（平年92頭）と少（-） 2) 巡回調査圃場（5月第2週）では被害株率は21.0%（平年43.5%）と少、株当たり虫数は0.05頭（平年0.07頭）と平年並（±） 3) 一般圃場での発生量は、少～平年並（概して少）（-）</p> <p>考察： 現在やや少の状況ですが、越冬成虫の水田への飛来は安定したと思われるので、予想発生量は現状のままやや少と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月18日発表）によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 県予察圃（5月中旬）では、発病葉率6.0%（平年39.3%）と少（-） 3) 巡回調査圃場（5月第2週）では、1圃場のみで病斑を確認（-） 4) 一般圃場では、発生量は少～平年並（概して少）（-）</p> <p>考察： 急増する要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は少と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（5月18日発表）によると、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想（+） 2) 前年（10月下旬）の県予察圃（無防除圃）では、果実発病度79.5（平年82.6）と平年並（±） 3) 冬期の落葉は少なく、感染源となる枯れ枝は今後増加しにくい状況（±）</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州 少 中晩柑 平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 県予察圃における新葉での初発は、5月9日(平年5月8日)と平年並(±) 3) 県予察圃(5月中旬)では、発病葉率1.6%(平年5.7%)と少(-) 4) 巡回調査圃場(5月第2週)では、旧葉における平均発病度は温州みかんで0と少(-)、中晩柑類で4.7と平年よりやや多(+) 5) 一般圃場での発生量は、少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は温州みかんで少、中晩柑類で平年並と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想(-) 2) 県予察圃(5月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で83.6頭(平年19.2頭)と多、防除区で1.1頭(平年1.4頭)と平年並(+) 3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均寄生葉率は7.7%(平年6.4%)とやや多、1葉当平均寄生虫数は0.14頭(平年0.60頭)と平年並(±) 4) 一般圃場での発生量は、やや少~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想(-) 2) 県予察圃(5月上旬)では、粘着トラップへの誘殺は未確認(平年0.31)(-) 3) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少)(-)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想(+) 2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均発病葉率0%(平年0.1%)と少(±) 3) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
	ハダニ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想(-) 2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年0.2%)と少、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.0頭)と少(-) 3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)(-)</p> <p>考察： 現在は少の状況で、今後の気象要因からも予想発生量は少と考えます。</p>



作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ブドウ	べと病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発病は未確認(平年0%) 3) 一般圃場では、一部で発病を確認 考察： 気象要因を重視すると、今後の増加を勘案して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:4月1日~5月10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ925頭(平年485.6頭)とやや多、ツヤアオカメムシ1,242頭(平年1,656.7頭)と平年並 2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~5月15日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ14頭(平年91.0頭)と少、ツヤアオカメムシ0頭(平年5.8頭)と少 3) フェロモントラップ(4月1日~5月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で78頭(平年100頭)、中間地(津市白山町二本木)で47頭(平年93頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で5頭(平年13頭)とやや少 4) 巡回調査圃場(5月第2週)では、飛来は未確認 5) 一般圃場(東紀州地域のかんきつ園)では、やや多の傾向 考察： 圃場への飛来は当面増加するとは考えにくく、予想発生量は少と考えます。</p>
チャ	炭疽病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並) 3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発病は未確認 考察： 気象要因(気温)を重視し、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>
	もち病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+) 2) 前年(10月中旬)の一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) 3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、発病は未確認 考察： 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	カンザワハダニ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、気温は高くなく、平年に比べ曇りや雨の日が多い予想 (-)</p> <p>2) 県予察圃(5月上旬)では、寄生葉率は12.0%(平年10.0%)で平年並、1葉当寄生虫数は0.75頭(平年0.74頭)で平年並(±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均寄生葉率は15.6%(平年6.5%)と多、平均寄生虫数は0.40頭(平年0.20頭)とやや多(+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノホソガ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月第1~5月第2半旬)では、誘殺数は1,771頭(平年1,127.2)と平年並(±)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~5月第2半旬)では、誘殺数は2頭(平年3頭)と平年並(±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均寄生虫数は1.2頭(平年1.9頭)と平年並(±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~5月第2半旬)では、誘殺数は1,131頭(平年781頭)とやや多(+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、平均寄生虫数は3.9頭(平年11.8頭)と少(-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日)によると、気温は高くなく(+)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(-)予想(-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少~やや多(概して平年並)(±)</p> <p>考察: 気象要因では特に大きく減少するとは考えにくいので、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日)によると、気温は高くなく(-)、平年に比べ曇りや雨の日が多い(+ )予想(-)</p> <p>2) 県内で大半を占める章姫は罹病性が高い品種(+)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ネギ	ネギコガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月4半旬~5月3半旬)では、誘殺数は1頭(平年143頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、被害葉率0%(平年0.05%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 急増する要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
野菜共通	コナガ	-	少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月4半旬~5月3半旬)では、誘殺数は114頭(平年395頭)と少 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 急増する要因はなく、予想発生量は少と考えます。</p>
ツツジ類	褐斑病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(5月18日発表)によると、平年と比べ曇りや雨の日が多い予想 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(5月第2週)では、新梢発病葉率0%(平年0.1%)と平年並 (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減要因がなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ツツジゲンバイ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(5月第2週)では、ヒラドツツジ、サツキとも成虫、幼虫は未確認(平年値: ヒラドツツジ成虫0.5頭・幼虫0.7頭、サツキ成虫0.2頭・幼虫0.5頭)と少 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 現状はやや少の状況ですが、特に大きな増減要因がないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>

## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6
評価	早	やや早		平年並				やや遅		遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「イチゴ炭疽病について」

県内で栽培の9割近くを占める品種「章姫」は、炭疽病にかかりやすいので特に注意しましょう！

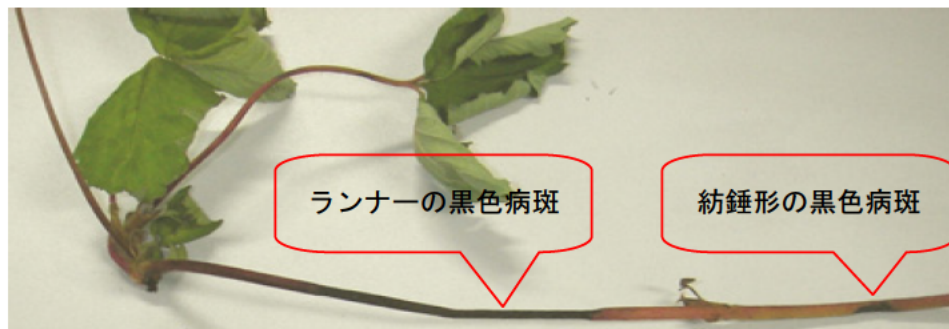
### ◆どんな病気◆

イチゴの重要病害で、発病すると回復せずに株全体が枯死する怖い病気です。

育苗時に多発すると苗不足になります。病原菌は、カビの一種で、病徴は、葉では直径2～3mmの黒色の斑点型病斑を生じます。葉柄やランナーでは、やや陥没した黒色病斑を生じ、クラウン部は外側から内側に向かって黒褐変し、しおれて枯死します（はじめに若い葉1～2葉がしおれます）。



斑点型病斑



ランナーの黒色病斑

紡錘形の黒色病斑

### ◆伝染の特徴◆

第一次伝染源は、潜在感染した親株(病徴は見られない)と育苗圃場の土壌中の発病株残渣です。

雨や灌水、ハウス内の水滴落下による水はねで隣接株へ感染します。葉かき痕やすれ傷などからも菌が内部に侵入します。

### ◆発生しやすい条件◆

6月下旬から9月下旬にかけての高温多湿の時期には多く発生します(生育適温は、25～27℃)。早ければ5月下旬の温度上昇とともに土壌水分、空気湿度が高いと発生することがあります。

### ◆これからの防除対策◆

1. 地床では、冠水がなく排水のよい圃場を選定し、なおかつ排水対策は十分に行います。
2. 全面マルチや高設ベンチなどにより地面からの跳ね返りを防ぎます。  
(できればハウスなど雨よけ施設の中で管理)
3. 灌水は、水滴が極力茎葉に当たらないように行います。  
(やさしく手灌水、チューブ株元灌水)
4. 薬剤防除は、定期的な防除と降雨前、葉かき後の防除を徹底して行います。(特に梅雨期、高温期)
5. 薬剤散布は、株元まで十分かかるようにし、畝やベンチの両側からも散布します。
6. 育苗管理では、発病の見落としがその後の拡大の原因になるので、毎日観察し、発病を確認したら周辺も含めて思いきって廃棄します。  
(例：親株を含めランナーでつながっている苗全て)

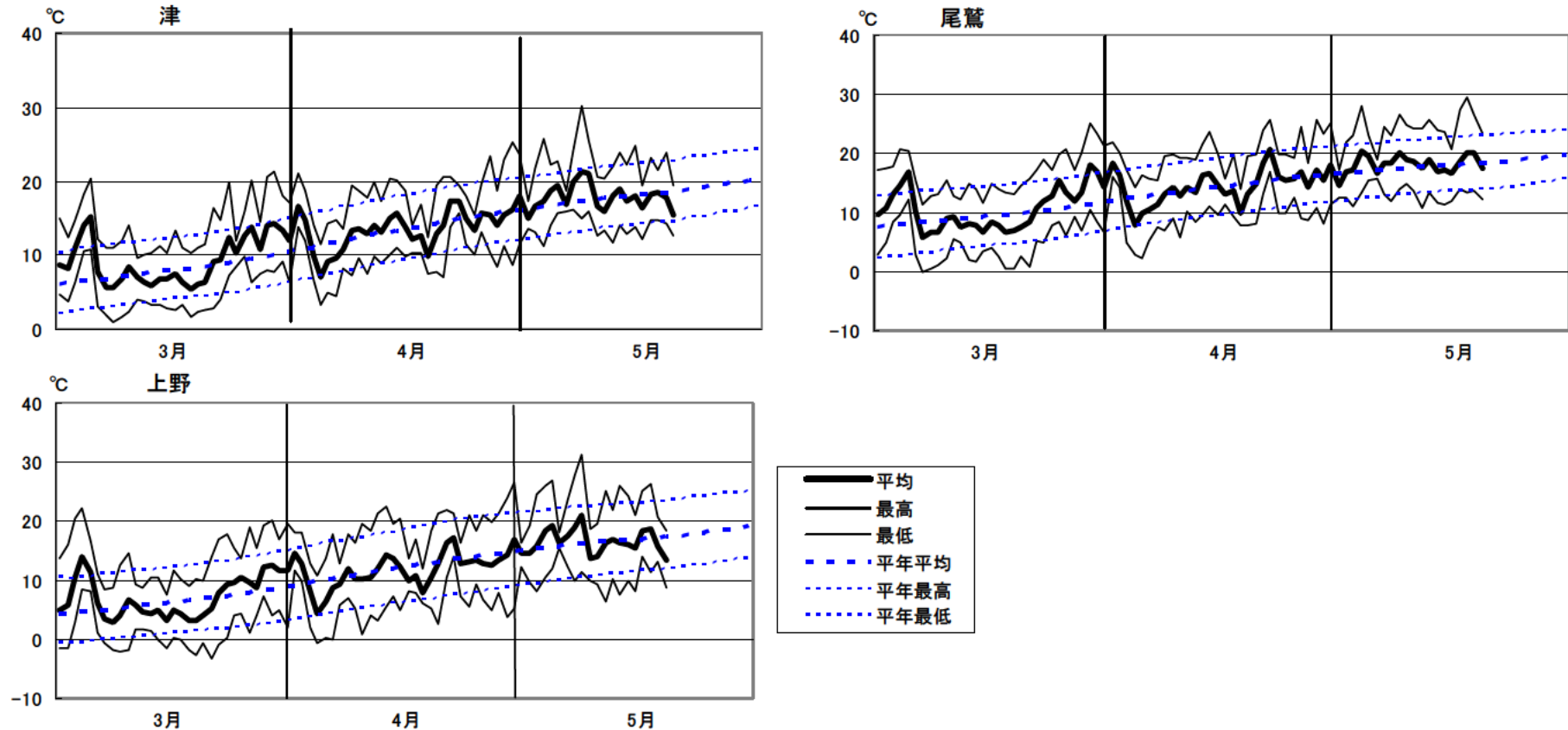
## 6. 気象のデータ

東海地方 1 か月予報 (平成 19 年 5 月 18 日 名古屋地方気象台発表)

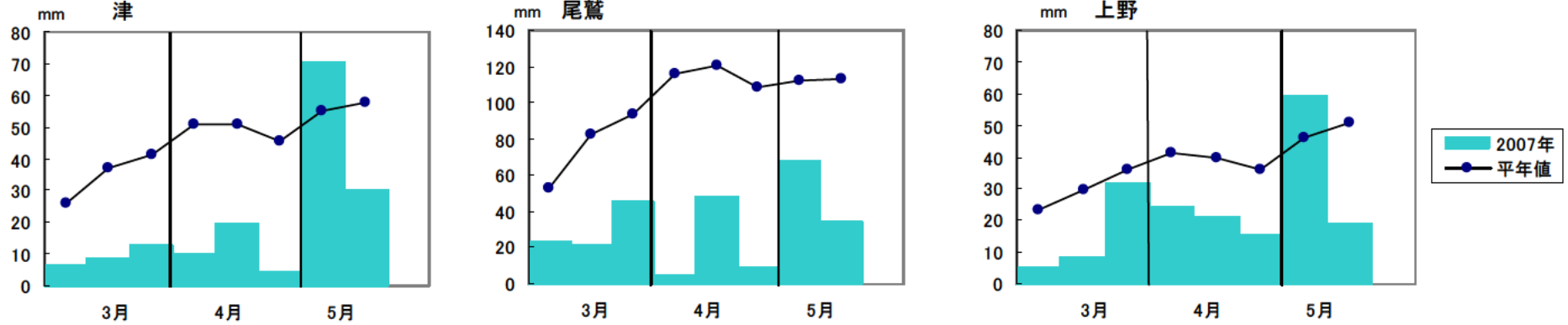
東海地方の向こう 1 か月は、天気は数日の周期で変わりますが、気圧の谷や前線の影響で、平年と比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

1 週目 (5 月 19 日～25 日)	期間の前半ははじめに雨が降る他は高気圧に覆われて晴れるでしょう。期間の後半は気圧の谷の影響で曇る日が多い見込みです。	晴れ日数の平年値 約 4 日
2 週目 (5 月 26 日～6 月 1 日)	気圧の谷の影響で、平年と比べ曇りや雨の日が多いでしょう。	同 約 4 日
3～4 週目 (6 月 2 日～15 日)	低気圧や前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。	同 約 7 日

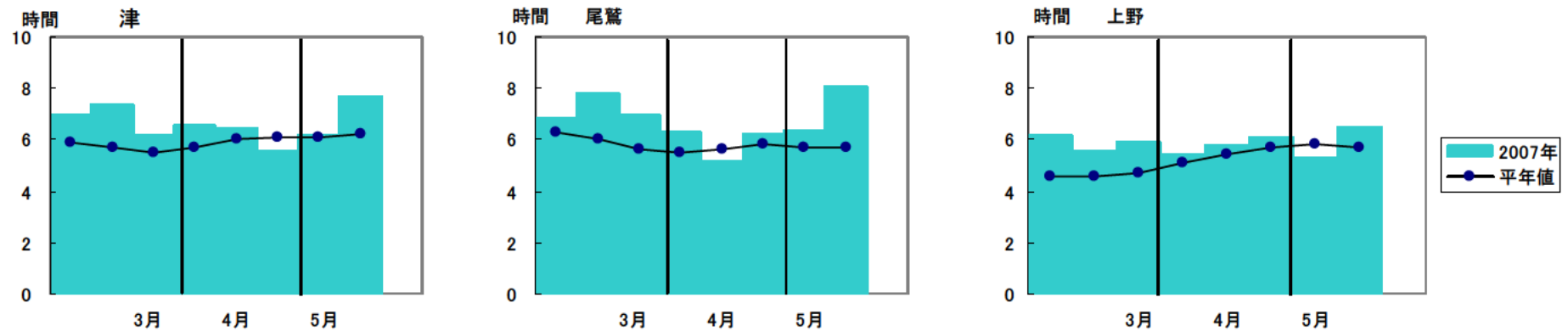
気温の日別推移 (東京管区気象台発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



降水量の旬別推移 (東京管区気象台発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (東京管区気象台発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



## 7. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

### 1) 利用方法

この病虫害発生予報は、定期的（4～8、10、3月各月の下旬）に発表されます。この予報の他、不定期に警報、注意報、特殊報、技術情報も発表されます。

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必ず「三重県病虫害防除所」の文字が入るようにしてください。

病虫害防除所ホームページには、これらの情報のほか、各種のグラフや写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

### 2) メール通知サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせするサービスを行っています。この通知を希望される方は、病虫害防除所ホームページの要領にしたがってお申し込みください。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/byotyumail.htm>

### 3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時

はラベルをよく読んでください。最新の農薬登録状況を確認するには、次のインターネットサイトで調べるのが便利です（下記のアドレスに変更されています）。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtlm000.html>

### 4) NEW 三重県病虫害防除の手引きの新版

「三重県病虫害防除の手引き」は、従前の「病虫害防除基準（除草剤使用基準・植物成長調整剤使用基準）」に代わるものです。最新版は平成19年3月12日現在のもので、近々ホームページに掲載する予定をしております。

### 5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用の便宜を図るため「平成19年度病虫害発生予報利用の手引き」を作成しました。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h19yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h19yohotebiki_.pdf)